

『月明かりの小舟に揺られて』 寸評

- ・たいへん相性のいいくみあわせ
- ・ハープのイメージをまとめるのに苦労したようにおもわれる
- ・もっとも効果のある音域でフルートが活躍
- ・フルートの装飾音がとても優雅でよい
- ・タイトルもよくつたわる

完成度をさらに上げるために

- ・m.8 から属調へ転調したと解釈し、へ長調に終止した方がむりがない
- ・m.11-13 C7がm.10からのびたままm.14 b.1 でFに解決
- ・奏者が適当に和音をズラして弾くのでアルペジオは特につけなくともだいじょうぶ
- ・アルペジオは通常、低音→高音へズラすので矢印は不要
- ・同じ弦を2度はじくためにはいったん前の振動を止める→和音は音高を変えてはじき直さないようにするとよい
- ・和音が変わるまではのぼしっぱなしにしておきたいのでm.5-7等は二分音符で記譜するとよい
- ・ハープにスラーは不要
- ・m.13 b.4 Fl. もD \flat に
- ・m.15 ハープにスタッカートで余韻を止めさせる指示はもったいない
- ・アルペジオは和音の上下3度の余裕で長めにするとみやすい
- ・m.13 からへ長調で終止させる例

Harp



m.=measure 小節番号のことです。
b.=beat 拍のことです。

なんとも印象にのこる作品です。

持麿 勉